

## 「ソフトバンク八雲ソーラーパーク」の運転開始について

三菱UFJリース株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：柳井 隆博、以下「三菱UFJリース」）とソフトバンクグループで自然エネルギー事業などを行うSB エナジー株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：三輪 茂基、以下「SB エナジー（エスビー エナジー）」）は、本日、北海道二海郡八雲町において国内最大級の蓄電池併設型大規模太陽光（メガソーラー）発電所「ソフトバンク八雲ソーラーパーク」の営業運転を開始しました。

「ソフトバンク八雲ソーラーパーク」は、八雲エネルギー株式会社（本社：秋田県秋田市、代表取締役社長：小林 光彦）が所有する北海道二海郡八雲町の約132万㎡（約132ha）の土地に所在し、出力規模が約10万2,300kW（約102.3MW）、年間予想発電量が一般家庭約2万7,967世帯分の年間電力消費量に相当する約1億68万2,000kWh／年の発電を行うメガソーラー発電所で、三菱UFJリースとSB エナジーが設立する「北海道八雲ソーラーパーク合同会社」が運営します。

「ソフトバンク八雲ソーラーパーク」は、北海道電力株式会社が2015年4月に公表した「太陽光発電設備の出力変動緩和対策に関する技術要件※」に基づいて、蓄電容量約2万7,800kWh（約27.8MWh）の大容量リチウムイオン電池を併設しており、蓄電池を併設する太陽光発電所としては国内最大級の出力規模の発電所です。

三菱UFJリースは、「再生可能エネルギー」を注力分野の一つに位置付けています。この分野の取り組みを通じてお客さまやパートナー企業のニーズに応えるとともに、社会的課題の解決に貢献してまいります。

SB エナジーは、今後も自然エネルギーの普及・拡大を目指し、メガソーラーをはじめとする自然エネルギー発電所の建設と運営を推進します。

※ 北海道電力株式会社が太陽光発電事業者に求めている技術要件。太陽光発電設備に蓄電池などを併設して出力を制御することで、出力の急峻な変動緩和対策の導入を太陽光発電事業者に求めるもの。

### ■ 「ソフトバンク八雲ソーラーパーク」の概要

所在地	北海道二海郡八雲町山崎および花浦
敷地面積	約132万㎡（約132ha）
出力規模（太陽電池容量）	約10万2,300kW（約102.3MW）
蓄電設備（蓄電池容量）	約2万7,800kWh（約27.8MWh）
年間予想発電量（初年度）	約1億68万2,000kWh／年（約10万682MWh／年） 一般家庭約2万7,967世帯分の年間電力消費量に相当 ※1世帯当たり3,600kWh／年で算出
運転開始日	2020年10月16日（金）

■ 「北海道八雲ソーラーパーク合同会社」の概要

正式名称	北海道八雲ソーラーパーク合同会社
所在地	北海道二世郡八雲町山崎 379 番地 1
設立年月日	2017 年 1 月 4 日
出資構成	SB エナジー株式会社 : 50% 三菱 UFJ リース株式会社 : 50%

■ 「ソフトバンク八雲ソーラーパーク」全景写真



- SoftBank およびソフトバンクの名称、ロゴは、日本国およびその他の国におけるソフトバンクグループ株式会社の登録商標または商標です。

【本件に関する報道機関からのお問い合わせ先】

三菱 UFJ リース株式会社 コーポレートコミュニケーション部  
Tel: 03-6865-3002